

耕英に生まれて
 貞男さんは、一夫さんの長男として、昭和27年に耕英で生まれた開拓2世です。学校を卒業した頃は、開拓地で農業を行っていくのは厳しいと感じ、栗原に就職先があまりなかったため、上京して貴金屬加工製造会社に就職しました。
 東京で仕事を覚え、大都会の暮らしにも慣れたある日、仕事中に流れていたラジオ放送で「イワナの養殖が日本で初めて耕英で成功した」という話題に触れ驚きました。生まれ故郷と父親はじめ開拓者たちの偉業を誇りに思い、望郷の念にかられます。すでに一人前の職人として成長していた貞男さんでしたが、耕英で働きたいと、東京での仕事を辞め、帰郷することを決意します。



イワナ養殖に生涯を捧げる
 実家に戻り、父の仕事を引き継ぎ、イワナ養殖一筋の生活が始まりました。両親が他界した後は、夫婦で養魚場の運営と食堂の切り盛りをしてきました。イワナは冷水を好む渓流魚で、川の源流域から上流域の清流に生息しています。また、イワナが生きていくためには、水中に酸素が多く含まれる環境が重要で、大量の澄んだ水を常に確保する必要があります。数又養魚場では、養殖用のいけすに、近くを流れる沢から、水を引き込んでいます。沢の水量は雨と雪などに左右され、一年を通して一定でないため、常に水量を最適に調整する必要があります。



雨の日も 雪の日も
 雨の日も、風の日も、凍てつく吹雪の日も、数又さん夫婦は365日、1日も手を休めることなく、水の管理を行い、イワナの生育状態を確認してエサを与えます。生き物が相手なので、1日たりとも欠かすことのできない養殖の作業。イワナの養殖に休みなどありません。夫婦で泊りの旅行に出かけたのは、実に新婚旅行の時だけだったと言います。



大雨などで取水口に木の枝や落ち葉などが詰まると、水量が十分に確保できません。そのままにしておくと、イワナはすぐ息絶えてしまうので、どんなに荒れた天候でも対応が求められます。

【特集】 開拓者精神を受け継いで ～イワナ養殖発祥の地、耕英～

栗駒地区耕英はイワナ養殖発祥の地として知られています。イワナ養殖の難しい技術に挑戦し、その食文化を全国へ広めるきっかけを作った、亡き父の意志を受け継ぐ数又貞男さん。
 平成20年岩手・宮城内陸地震、東日本大震災など度重なる試練を乗り越え、養魚場を守り続ける貞男さんの思いを紹介します。

6次産業化へ
 イワナの養殖に成功すると、イワナを仕入れた耕英の温泉旅館「新湯温泉 くりこま荘」がイワナ料理を創作して売り出したことで、耕英の名物となったイワナが大勢の観光客を呼び、地域を潤わせました。ただし、イワナはマスなど他の渓流魚よりも生育に時間がかかる上に、養殖は自然環境に大きく左右されることから、出荷量が安定しないという悩みがあります。仕入れ元の温泉旅館としては、料理を安定供給できないイワナは、取り扱いが難しい商品です。そこで、数又養魚場では安定供給に課題があるイワナを出荷せず、自家消費に切り替えるべく、自らイワナ料理を提供するため、食堂を立ち上げました。イワナの生産だけでなく、食品加工と販売までを一体的に行い、新たな付加価値を生み出す、6次産業化にいち早く取り組んだのです。



- ① 栗駒山の中腹に広がる開拓地、栗駒地区耕英
- ② 食堂の「岩魚の館」でイワナ料理に舌鼓を打つ台湾南投市(姉妹都市)からの観光客
- ③ 食堂で提供される品々。定番の塩焼きと刺身。看板料理の岩魚重は、ふっくらと蒸し上げ甘い辛いタレを絡めた蒲焼風の絶品

耕英開拓の歴史
 栗原の大地を潤す河川が流れ出す、栗駒山の中腹に広がる緑豊かな栗駒地区耕英。現在、23世帯、42人が農業などをなりわいとして暮らしています。
 ここは、第二次世界大戦後の昭和22年、旧満州(中国東北部)開拓の夢が破れ、命からがら帰国した引揚者と、農地を求めた県内の人々が移住した開拓地です。
 耕英に新たな人生をかけた開拓者たちは、ブナの原生林に覆われた未開の地を、血のにじむような努力で切り拓き、現在の礎を築きました。開拓当初は、食料も満足に手に入られず、電気も水道もない隙間風が吹き荒ぶあばら家に住み、大変な苦労だったと言います。
 その後、炭焼きやナメコ栽培など栗駒山の恵みを生かし、生活の糧を得ましたが、それも次第に衰退し、新たな生活の糧が求められました。
新たななりわいづくり
 昭和40年代、開拓者たちは、山あいに住む人の貴重なタンパク源として食用される、渓流魚に注目しました。



地域の資源を生かそうと、イワナの養殖を試みます。昭和43年、故数又一夫さんが養殖に挑戦しますが、思うようにいかず失敗。翌昭和44年に1万匹のふ化に成功し、さらに昭和45年には4万匹になり、事業化の目途が立ちました。
 それまで、イワナの養殖はとても難しく、実現不可能と言われていました。しかし、一夫さんはイワナの生態を長年にわたり観察し、試行錯誤を繰り返すことで、成功に至りました。